

ほっかいどう

広報紙

その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

年5回発行
5・7・9・11・2月の下旬

北海道

当てよう!
道産品!
裏表紙をチェック! >>>>>

2017年
10月号
平成29年9月発行
通巻222号

【特集】目指そう! エネルギーの地産地消

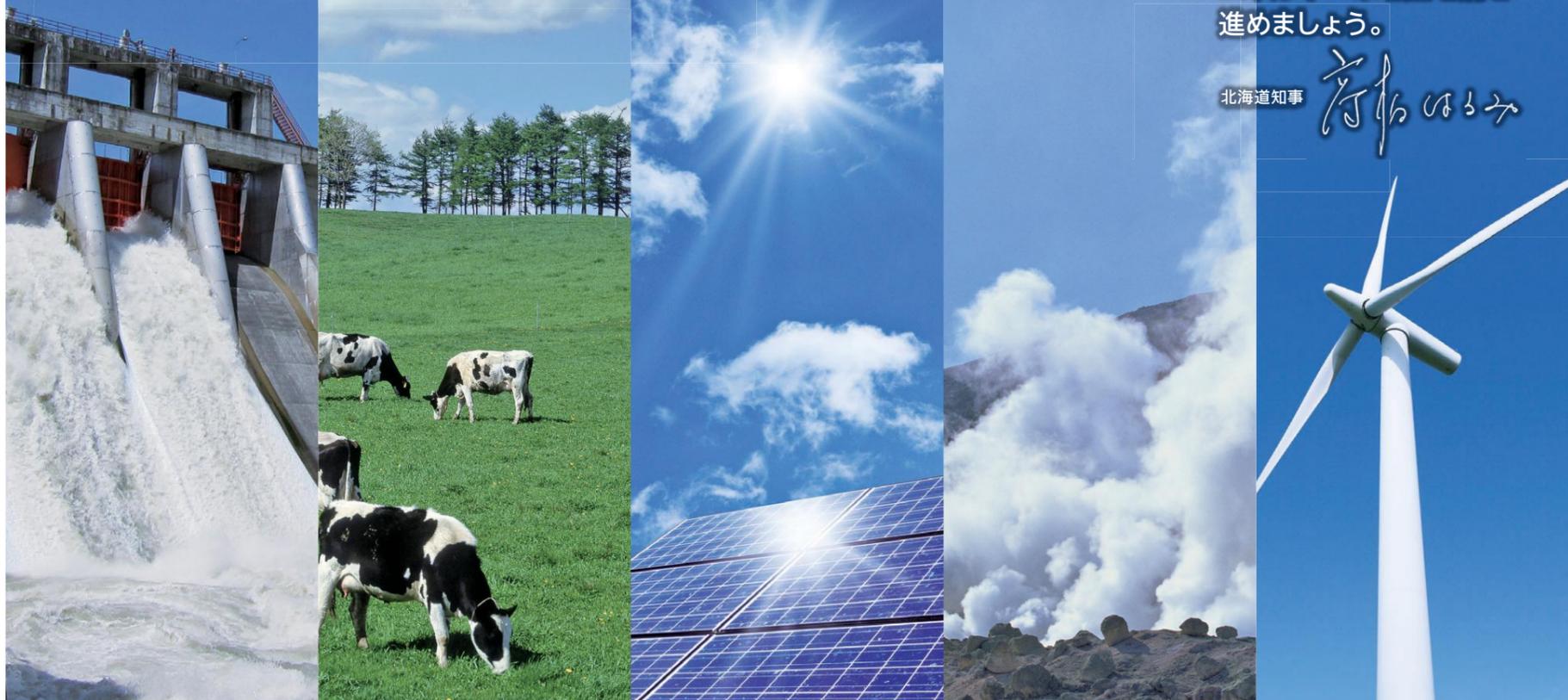
自然豊かな北海道にふさわしい 新エネルギーを育てていきます。

北海道は、環境にやさしい新エネルギー資源の宝庫。
いま、その導入を積極的に進めています。

多様な資源を有する北海道。
地域の特性を生かして
エネルギーの地産地消を
進めましょう。

北海道知事

富田 博



ご存じですか 新エネルギーと北海道の優位性

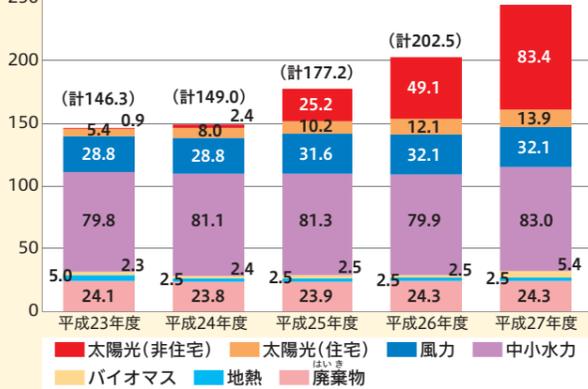
新エネルギーとは、風力、太陽光、中小水力、地熱、畜産系バイオマス、木質バイオマス*1など、持続的に利用できる環境負荷の少ないエネルギーのことです。また、コージェネレーション*2、燃料電池といったエネルギーを無駄なく活用する利用形態も含まれます。

エネルギーは暮らしと経済の基盤として非常に重要ですが、わが国では、石油、石炭などエネルギー資源の多くを海外からの輸入に頼っているため、エネルギーを巡る国内外の情勢に影響を受けやすいのが現状です。また、石油、石炭などの化石燃料は、資源に限りがあるだけでなく、使用に伴い多くの二酸化炭素を排出するため、地球温暖化の原因にもなっています。特に北海道は、積雪寒冷地であり、広い地域に市街地や人が分散しているという地域特性から、暖房や自動車の利用による化石燃料の使用が多くなっています。

一方、自然豊かで広大な北海道は、風力、太陽光、水力、バイオマスなど豊富なエネルギー資源を有しています。特に、風力、中小水力発電では全国1位、太陽光発電(非住宅)では全国2位の導入ポテンシャルがあります*3。

こうした北海道の優位性を生かし、エネルギーを自立的に確保していくには、環境負荷が少なく、地域の資源を生かせる新エネルギーの導入を進めていく必要があります。

北海道における新エネルギー導入量(発電分野)【設備容量】の推移(万kW)



*1 バイオマスとは、再生可能な生物由来の有機性資源のこと。道内では、家畜ふん尿などを使った畜産系バイオマスや、木くずなどを使った木質バイオマスなどがある。
*2 コージェネレーションとは、発電と同時に得られる熱を給湯、暖房、冷房その他の用途に利用すること。
*3 出典:「再生可能エネルギーゾーニング基礎情報(平成28年度版)」(環境省)、「H22再生可能エネルギー導入ポテンシャル調査」(環境省)

新エネルギーの導入における課題

新エネルギーは石油、石炭など既存のエネルギーと比較すると、現状では発電コストが高い、風力、太陽光は出力が不安定といった課題があります。

さらに今後、風力、太陽光など新エネルギーが大量に導入された場合、天候などの影響で出力が大きく変動することがあるため、蓄電池の設置や発電出力の抑制などの対策も必要です。

進めます! エネルギーの地産地消と水素の活用

こうした課題に対応し、地域における新エネルギーの導入を加速していくため、道では今年度、「北海道新エネルギー導入加速化基金」を創設し、全道のモデルとなる先駆的な取り組みや具体的な導入を行う取り組みへの支援を強化しました。

暮らしに不可欠なエネルギーを身近な場所で自立的に確保して、暮らしの豊かさや経済の活性化につなげていく取り組み(エネルギーの地産地消)を全道に広げていきます。

また、次世代エネルギーとして期待される水素を活用した燃料電池の普及にも取り組んでおり、移動式水素ステーションの整備への支援や燃料電池自動車の公用車としての導入など、水素の活用も進めています。

クイズ! 北海道の日

「シカの日」は
毎月いつ?



答えは中面下に▶

▶特集に関するお問い合わせ 道庁環境・エネルギー室 ☎(011)204-5319

【特集】 目指そう！ エネルギーの地産地消

北海道の優位性を生かした新エネルギーを次の世代へ。

新エネルギーを、地域で育て、地域で使う。未来に向けたエネルギーの地産地消の取り組みを紹介します。

暮らしや産業に生かされる新エネルギー

●未来を見すえ、新エネルギーの導入を加速します。

北海道は、多様な新エネルギー源の宝庫。特に、風力や地熱などの活用については全国トップクラスの導入ポテンシャルがあり、関連産業の育成も期待できます。

このため、道では、地域特性を生かしたエネルギーの地産地消が進められるよう、取り組みの段階に応じたきめ細かな支援を行っています。

新エネルギーを利用した先進的な取り組み事例や具体的な導入手順などをわかりやすく市町村や企業に紹介するとともに、地域で新エネルギーの導入や活用に携わる人材を育成するセミナーを開催するなど、

新エネルギーの活用や企業の関連産業への参入を支援しています。

また、今年度創設した「北海道新エネルギー導入加速化基金」を利用して、新エネルギーの導入を行う市町村などに対して、エネルギーの地産地消に関するモデル事業への支援、設備設計・導入への補助や、事業計画の作成をサポートするコーディネーターの派遣などを行っています。

さらには、道民の皆さんに新エネルギーや道内への導入状況を知ってもらうためのイベントも開催しています。

北海道新エネルギー導入加速化基金 [検索](#)

▶道庁環境・エネルギー室 ☎(011)204-5319

余剰熱と雪冷房で市場価値の高いマンゴーを生産。



酪農が盛んな鹿追町では、家畜ふん尿を発酵させてバイオガス発電を行っています。そのバイオガスプラントで発生する余剰熱を利用して、平成25年度から町と協働で始めたのがマンゴー栽培事業。通常は南国で夏季にしか生産できないマンゴーを北海道で冬に収穫することにより、国産マンゴーが出回らない12月に市場価値の高い農産物として出荷することができます。

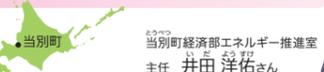
そのために重要なのがハウスの温度管理。冬には余剰熱で暖め、夏には温度が上がりにくいように雪を冷房として利用しています。

道内でマンゴー栽培する首更町に学び、本場・宮崎県での研修を経て、栽培4年目の昨シーズンは約100個を収穫。収量の安定化を目指して、栽培技術の向上に努めています。



鹿追産マンゴーと栽培ハウス

コミュニティバスの安定運行を太陽光発電が支えています。



当別町では、平成26年度から町内のバス事業者と連携し、町有地に設置した太陽光発電施設で作った電気を売り、その収益をコミュニティバスの経費の一部に充てています。

これは、バス事業の経営を安定させ、地域交通の活性化を図ることがねらいです。バスはもともと、使用済み天ぷら油からできるバイオディーゼル燃料を使って運行していますが、太陽光発電の収益で事業の安定化を下支えすることで、より「環境にやさしいバス」としてのイメージアップを図っています。

今後は、町内の3路線に加え、「北畝の風 道東の駅とらべつ」の開業に合わせて新路線も増設するなど、町民の足としてさらに定着させたいと考えています。



太陽光発電パネルとコミュニティバス

未来に広がる水素エネルギー

●なぜ、いま、水素エネルギー？

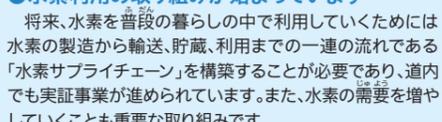
北海道の豊かな自然から得られるエネルギーを有効に活用する方法として、水素エネルギーの利用が注目されています。水素には、「利用するときに二酸化炭素を排出しない」「水などさまざまなものから作ることができる」「貯めて運ぶことができる」などの優れた特長があり、将来、エネルギーの中心的役割を担うことが期待されています。

道では、中長期的な視点から北海道における水素の利活用を進めるため、「北海道水素社会実現戦略ビジョン」を策定し、低炭素社会づくりに加え、エネルギーの地産地消による災害に強い地域づくり、水素関連産業の創出を目指し、さまざまな取り組みを進めています。

●水素利用の取り組みが始まっています

将来、水素を普段の暮らしの中で利用していくためには水素の製造から輸送、貯蔵、利用までの一連の流れである「水素サプライチェーン」を構築することが必要であり、道内でも実証事業が進められています。また、水素の需要を増やしていくことも重要な取り組みです。

■水素サプライチェーンの図(イメージ)



水素を活用した身近な機器として、家庭用燃料電池(エネファーム)や燃料電池自動車(FCV)の普及が始まっています。道では、こうした水素の利活用について道民の皆さんに広く知ってもらおうと、「水素・燃料電池普及キャラバン」を展開しており、地域のイベントと連携して、FCVの展示や試乗体験、エネファームの展示などを行っています。

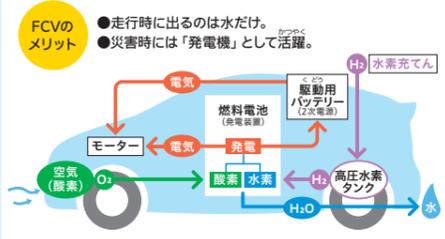
また、FCVの導入を広げたいと、道では7月、FCVを公用車で初めて導入し、イベント会場で展示するなど普及啓発にも活用しています。



公用車の燃料電池自動車

水素ってスゴイ! 燃料電池自動車(FCV)のしくみ

FCVは、水素と酸素を化学反応させてきた電気をエネルギーとして、モーターを回して走ります。



▶道庁低炭素社会推進室 ☎(011)204-5885

まちに根づく実用的な取り組みを積極的に進めています。



室蘭市経済部産業振興課 主幹 大久保 嘉人さん

低炭素都市の実現を目指して市が進めている「空間グリーンエネルギータウン構想」は、エネルギーの地産地消を進め、地域経済を活性化しようというものです。工場などものづくりの過程で発生する水素の利用には早くから着目し、道内初となる燃料電池自動車と移動式水素ステーションを一体的に導入するなど、普及に向けた実用性の高い取り組みを進めています。

市内を走る燃料電池自動車は、公用車を含め4台。2020年までに15台の導入を目指しています。現在は導入促進のため企業への貸出を行っているほか、水素供給に使う金属製ホースの開発・製造に地元企業が取り組むなど、ものづくりのまちにふさわしい動きも出てきました。

今後も水素の実用化に向け、室蘭と札幌を結ぶ道央圏での水素サプライチェーンづくり、道や関係機関と連携して進めていきます。



移動式水素ステーション

エネルギーを大切に使う暮らしへ

暮らしの中でできることはたくさんあります。環境省がエネルギーを無駄なく使うことを心がけましょう。 えこご助

●3つの「S」で、省エネにご協力ください! ~省エネ3Sキャンペーン~

Save エネルギーの使用を抑える

使っていない照明はこまめに消す。電気の便のフタは閉めるでござる。

1か月あたり 1.6kWh節電 1,099g CO ₂ 削減	49円 節約	1か月あたり 2.9kWh節電 1,946g CO ₂ 削減	86円 節約
---	-----------	---	-----------

※54Wの白熱電球の点灯を1日1時間短縮で計算 ※浴室の湯冷ましを減らす場合 ※5WのLED電球の点灯を1日1時間短縮で計算

Select 省エネ型のモノを選ぶ

日本には湯たんぽという優れた省エネグッズがあるでござるよ。

1か月あたり 0.3kWh節電 3,518g CO ₂ 削減	97円 節約	1か月あたり 3,351g CO ₂ 削減	178円節約
---	-----------	-------------------------------------	--------

※石油ファンヒーターの運転を1日1時間短縮で計算 ※節約効果は電気などの平均的な単価を考慮し算出しており、条件によって効果も変わることから参考としてご覧ください。

Shift ライフスタイルや価値観を変える

長時間のアイドリングはやめるでござる。

1か月あたり 0.3kWh節電 3,518g CO ₂ 削減	97円 節約	1か月あたり 3,351g CO ₂ 削減	178円節約
---	-----------	-------------------------------------	--------

※節約効果は電気などの平均的な単価を考慮し算出しており、条件によって効果も変わることから参考としてご覧ください。

余熱調理は身近な省エネ。エコクッキングがおすすめです。

省エネや節電を実践するとき、重要なのは「エネルギーを大切に使う」という考え方。必ずしも数値で効果を確認できる方法でなくても、楽しみながら工夫できることはたくさんあります。

そこでおすすめしたいのがエコクッキング。例えば 煮込み料理を作るときに、フェイスタオル2枚を十字に重ね、火から下ろした鍋全体をくるんで保温することで熱の放出を抑え、余熱調理ができます。

カレーやシチュー、豚汁などでは、水から調理して沸騰後3分で火から下ろせば、あとは鍋ごとタオルでくるんで約30分置けば、余熱で根菜にも火が通り、省エネと節約につながります。ぜひご家庭で実践してみてください。

地域の学習会や企業の研修、学校への出張授業などに推進員を派遣しています。詳しくはこちらへ。 [北海道地球温暖化防止活動推進員](#) [検索](#)

▶道庁低炭素社会推進室 ☎(011)204-5189

お知らせ! 赤れんが

救急医療の適切な利用にご協力ください

救急車の出動件数は平成20年以降、増加傾向にあります。増加の要因の一つが「軽症者の利用増加」です。

また、救急医療機関の夜間や休日の診療は、通常の診療時間帯より少ない医療スタッフ数で診療にあたっています。軽症者の気軽な利用が増えると、医師をはじめとする医療スタッフの負担が大きくなり、一刻を争う傷病者の治療に手が回らない深刻な問題となります。

地域の救急医療体制を維持するため、ご理解とご協力をお願いします。

- 日中から症状のある方や家庭の応急手当で様子を見られるような、軽い症状の方は、通常の診療時間帯に、かかりつけ医などの医療機関をご利用ください。
- 意識がない、骨折して歩けない、呼吸困難、激しい痛み、多量の出血、広範囲のやけどなどの場合は、すぐに救急車を呼んでください。
- 緊急時に受診可能な医療機関を検索する際には「北海道救急医療・広域災害情報システム」をご活用ください。

北海道救急医療 [検索](#)
▶道庁地域医療課 ☎(011)204-5250

おいしい道産品が集合 「北海道のうまいもの見つけた!」開催

道と(株)イトーヨーカ堂が連携して、北海道のおいしい「食」をPRするイベントを開催します。出店するのは、人気の産直市「北のめぐみ愛食フェア」の参加店や、「北海道HACCP」※1「きらりっぷ」※2の認証取得事業者、そして地域の特産品販売業者などです。また、参加型の展示コーナーや、ステージイベントも盛りだくさん。ぜひご来場ください。

※1 ※2 食品の衛生管理などに関する北海道の独自基準を満たした施設・商品を確認する制度
◎日時/11月1日(水)~6日(月) 10~20時(最終日は17時まで)
◎場所/アリオ札幌 イトーヨーカドー1階 特設会場(札幌市東区北7東9)
▶道庁広報広聴課 ☎(011)204-5111

平成29年度 自衛官候補生を募集します

自衛隊は防衛、災害派遣、国際協力などを担っており、日々、約22万人の自衛官たちが、日本及び世界を舞台に活躍しています。陸・海・空に広がる多彩な職種・職種の中から、自分を生かせる仕事を見つけませんか。

試験期日や会場など、詳しくは各地方協力本部までお気軽にお問い合わせください。応募はお早めをお願いします。
●お問い合わせ先
札幌地方協力本部 ☎(011)631-5472
函館地方協力本部 ☎(0138)53-6241
旭川地方協力本部 ☎(0166)51-6055
帯広地方協力本部 ☎(0155)23-5882
▶道庁市町村課 ☎(011)204-5152

屋外広告物の掲出と安全管理のお願い

屋外広告物の掲出には許可が必要ですが、安全で美しい街並みをつくるため、皆さんのご協力をお願いします。

- 看板を掲出、管理する方は、落下・倒壊の危険がないか、日常的・定期的点検を行いましょう。強風・地震のときは、特に注意が必要です。
- ひび、さび、腐食などの異常を見つけたら、補修や撤去を行いましょう。

また、危険な看板を見かけた方は次の連絡先までお知らせください。

屋外広告セーフティホットライン
(一社)北海道屋外広告業団体連合会
●FAX: (011)641-1560
●Eメール: hokouren@isis.ocn.ne.jp
▶道庁都市計画課 ☎(011)204-5563

皆さんと作る「北海道ミライノート」

「北海道ミライノート」は、皆さんが撮影した「私のお気に入りの北海道」の写真を掲載し、新たな北海道の魅力を紹介するウェブサイトです。現在、オープンに向け写真を募集中です。ぜひ「お気に入りの北海道」を投稿してください。

【写真の投稿方法】
①Instagramにログイン②北海道ミライノート Instagram(hokkaido_mirai_note)をフォロー③ハッシュタグ#北海道ミライノートをつけて写真を投稿
●開設日等は右のQRコードからご確認ください。
▶道庁広報広聴課 ☎(011)204-5111

労働トラブルの解決を支援

「個別的労使紛争あっせん制度」は、退職の要や賃金の引き下げ、各種ハラメントなど、個々の労働者と使用者間に発生した労働紛争について、専門のあっせん員が問題点の整理や助言を行い、解決を目指す。無料で利用できる。当事者のプライバシーは厳守。事務局(札幌市)から離れた地域には現地に向き対応しますので、どうぞご利用ください。



北海道労働委員会キャラクター 熱血社長 レオン社長(左) 元気な労働者 リンさん(右)
北海道労働委員会 [検索](#)
▶北海道労働委員会事務局 ☎(011)204-5667

ご存じですか 苦情審査委員制度

道が行った業務や制度について、皆さん自身の利害に関わる苦情を申し立てることができる制度です。皆さんに代わって苦情審査委員が公正で中立的な立場から必要な調査などを行い、審査します。個人情報保護にも十分配慮しますので、お気軽にご相談ください。
▶道庁道政相談センター ☎(011)204-5523

注目! 地域から

上川総合振興局 公共交通の理解促進に地域一体で取り組んでいます
昨年JR北海道が発表した「単独では維持困難な線区」のうち、上川管内では宗谷線、石北線、富良野線、根室線が対象となっており、沿線の市町村や振興局の職員が駅に立ち、どのような人がどのような目的で鉄道を利用しているのか調査しています。

胆振総合振興局 「洞爺湖有珠山ジオパーク」で食の探検を

地球を学び楽しむ大地の公園「洞爺湖有珠山ジオパーク」には、火山活動で形成された雄大な美しい自然や貴重な地質、縄文文化の遺跡群など多くの見どころがあります。また、多彩な食材の産地であり、大地の恵みを受けて育った「ジオフード」も大きな魅力です。そのシンボルメニューとして、さまざまな食材を一度に味わえる「ジオパークピザ」や、噴火湾のホタテをかたどった「ホットサンド」が誕生しました。「大地の物語」を感じるメニュー、ぜひ胆振を訪れて味わってください。
▶地域政策課 ☎(0143)24-9567

根室振興局 振興局職員による観光体験レポート発信中

根室振興局では、根室の魅力を感じ、実際に地域を訪れてほしいと、平成20年からホームページで、職員によるイベント・グルメなどの体験レポートを発信しています。例えば「北海道最東端のシーサイドラインをドライブ」「JR花咲線の車窓を撮影」「紅葉が色づく季節の路線バスの旅」「旅客機で上空から根室地域を撮影」など、職員が体験したリアルな情報を観光客の目線で紹介しています。ぜひ一度、ご覧になってください。
▶商工労働観光課 ☎(0153)23-6830

報告! 道議会

平成29年第2回定例会 (6/20~7/7)
正副議長の選挙
議長に十勝地域選出の大谷 亨議員(自民党・道民会議)、副議長に江別市選出の勝部 賢志議員(民進党・道民連合)が選出されました。

■定例会の概要
知事から提出された予算案2件、条例案8件とその他の案件7件が原案可決、人事案件2件が同意議決、報告案件1件が承認議決され、議員及び委員会から提出された決議案1件、意見案11件が原案可決されました。

本会議では、道内7空港の一括民間委託、JR北海道の路線見直し、災害対策、観光振興、農業、水産業・漁村振興推進計画、子どもの貧困対策など道政が直面する諸課題について、19人の議員が一般質問を行いました。

予算特別委員会からは、付託議案の審査経過を踏まえ、北方領土問題、EUとのEPA交渉、JRの路線見直し、道内7空港の一括民間委託、道立病院事業、働き方改革について意見が付けられました。

道議会

議長 大谷 亨
副議長 勝部 賢志

主な議決の状況
●予算案 2件
「平成29年度北海道一般会計補正予算(第1号)」など
●条例案 8件
「北海道税条例等の一部を改正する条例案」など
●決議案 1件
「特別委員会の定数及び調査事項に関する決議」
●意見案 11件
「EUとの経済連携協定に関する意見書」など
■ロシア連邦・サハリン州議会との交流

平成12年の北海道議会とサハリン州議会の協力に関する協定書に基づく相互交流の一環として、7月にサハリン州議会エフレモフ議長をはじめとする代表団が来道し、道議会議長を表敬訪問されました。

～ホームページをご覧ください～
道議会ホームページでは、議会中継・録画、議会の日程、傍聴・見学のご案内などをご覧いただけます。なお、質問などの詳細は、市町村役場等に配付している冊子「北海道議会時報」でもご覧いただけます。
▶議会事務局政策調査課 ☎(011)204-5691



平均年齢83歳の現役漁師3人組が
ヒップホップで島を盛り上げる

リーシーボーイズ/利尻町

ことし4月、現役漁師3人組の音楽グループ「リーシーボーイズ」がデビュー。インターネットで公開中のヒップホップミュージックの動画が「かわいい」「かっこいい」と話題です。利尻町が「80歳過ぎても現役で生き生きと暮らせる“漁師まち”」を道外の若者にPRしようと、若者向けの音楽とベテラン漁師を組み合わせたユニークな動画を企画・制作しました。これをきっかけに、漁師の仕事や生活に興味を持ってもらい、移住者を増やすことを目指しています。新しいPR動画を次々と公開し、島と3人組の魅力を発信しています。

ほっかいどう
未来への 元気遺産!

北海道を元気にする、人・もの・アイデアを紹介。漁師のまちおこし編

音楽イベントなどを通して
若者へ魚のおいしさをPR

魚食系男子プロジェクト/北見市



リーシーボーイズの3人(左からガンゼ、めんこE、コンプアツベカッチャ)



音楽イベントで提供した魚料理

東京からUターンした元広告マンの漁師が、「日本人の魚離れをなんとかしたい」と、3年前から魚食文化を発信する「魚食系男子プロジェクト」に取り組んでいます。もっと気軽に魚を食べてもらおうと、毎年、東京や札幌のカフェで音楽と魚料理を組み合わせたイベントを開催。若者をターゲットに、自らスープカレーやイタリア料理を作り提供しています。イベントの企画・運営から調理、DJまで全て漁師が手がけるといった意外性が人気を呼んでおり、最近ではピンクサーモンのパテ※など加工品の開発や、道外飲食店での地元の魚のPRなど、活動はさらに広がっています。 ※魚をペースト状に練った料理

最近若い人に、よく写真やサインを求められたりします。少しでも島の役に立てばとやったことが、これほどおもしろがってもらえるとは思いませんでした。

持ち前のキャラを生かして島の魅力を伝えたい。

ウニ漁は朝6時から8時まで、10時に出荷作業を終えたら、島の自然を動画で撮ったり、絵を描いたり趣味の時間。PR動画の中でも絵を描く場面など、趣味を楽しむ姿も紹介されています。



リーシーボーイズウニ漁師「ガンゼ」こと藤田 武利さん

東京から漁師を目指して来る若者も増えているようで、一緒にがんばりたいですね。

▶お問い合わせ 利尻町まちづくり政策課 ☎(0163)84-2345

うちは祖父の代から漁師。当初、後を継ぐ気はなかったのですが、7年前、父が体調を崩したのをきっかけに地元に戻ってきました。

魚のおいしさでまちを元気にしたい。

「鮮魚を買う消費者の購買行動」を大学の卒業論文でまとめたことや広告会社でのマーケティングの経験と人脈が、いまの活動に役立っています。後輩漁師も参加し現在は4人でプロジェクトを進めています。これからは地元の飲食店と共同での加工品開発や、住民と漁師が交流できる場づくりなど、幅広い活動を行っていきたくです。将来はおいしい魚で海外からも観光客を呼びたいですね。



魚食系男子プロジェクト代表 川口 洋史さん

▶お問い合わせ 魚食系男子プロジェクト ☎080-4508-0912(川口)

北海道150年

なるほど!知るほど!物語

北海道ならではの食の由来や知られざる歴史を紹介します。

北海道は、「日本の缶詰工場」発祥の地!

日本で本格的に缶詰製造を始めたのは1877(明治10)年、北海道開拓使の官営事業によるもので、作られたのは石狩川で捕れたサケの缶詰でした。

開拓使は、石狩と別海(根室管内)にサケ、美々(苫小牧市)にエゾシカ、厚岸にカキ、紗那(択捉島)にマスなどの缶詰工場を開業。当時の缶詰は庶民に手が届かない高級品で、売り先を探す状態でしたが、その後民間事業になると、日清(1894年~)・日露(1904年~)戦争で缶詰が兵食として使われ、次々と工場を新設。やがて北洋漁業が栄えるとサケ、マス、カニの缶詰生産は巨大産業となり、輸出の花形として北海道発展の一助となりました。

日本の缶詰工場発祥の地・石狩市にある「いしかり砂丘の風資料館」では、開拓期からの缶詰の資料を展示しています。また、初めてサケの缶詰が作られた10月10日は、後に「缶詰の日」になりました。



資料館では缶詰作りも体験できます

▶お問い合わせ いしかり砂丘の風資料館 ☎(0133)62-3711

当てよう!道産品

函館米穀(株)の平成29年産新米「北海道産ふっくりんこ」(5kg)をプレゼント!

抽選で30名様



次のアンケートに答えて道産品を当てよう!

10月号の中で最も興味を持ったのは、どの記事ですか

- ①特集(目指そう!エネルギーの地産地消)
- ②お知らせ!赤れんが ③注目!地域から
- ④報告!道議会 ⑤未来への元気遺産
- ⑥なるほど!知るほど!物語

●当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

●応募方法:アンケートの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、本紙への意見・感想を記入の上、ハガキ、パソコンまたは携帯サイトでご応募ください。

●応募期限:10月26日(木)必着 応募いただいた方の個人情報は、当プレゼントの発送以外には使用いたしません。

●応募先 ハガキ 〒060-8588(住所不要)

北海道広報広聴課「当てよう!道産品」係

パソコン 広報紙ほっかいどう

検索

携帯サイト



●掲載記事の関連ページ、広報紙アンケート結果、広報紙のバックナンバーなどの閲覧も上記からアクセスできます。 ※8月号のプレゼントには、2,567件の応募をいただきました。

北海道の人口	総人口	男	女
平成29年7月末	5,349,558人	2,526,710人	2,822,848人

※人口は毎月公表される統計資料に基づき直近のデータを掲載しています。

次号のお知らせ 12月号は11月22日(水)に配布開始の予定です。



みんなの文字

この広報紙は環境に優しい植物性インキを使用しています。本文には見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

広告

※この広告は、広告主の責任において北海道が掲載しているものです。